

改めて気づいた森林の大切さ

弘前市立福村小学校

造 田 紗央音

対象作品／富山和子著 『森は生きている（自然と人間）』 講談社

私は国語の「森林のはたらきと健康」という説明文を学習して、森林のにおいて心身が健康になるはたらきに感心し、もっと知りたいと思った。すると、関連した本の紹介ページに『森は生きている』という本がのついて、興味を持ったのでその本を読むことにした。すると、その本は、森林の持つ様々なはたらきをくわしく説明していて、自然を守るということはどのようなことかを、考えさせられる本だった。

この本を読んで、私はみんなに森林の無い暮らしを想像してほしいと思った。森林からのおくりものといえば、みなさんは、木、すなわち「木材」を思い浮かべるだろう。だが、私はおどろいた。紙、木、水、土、ゴムなども全て森林からのおくりものだった。

その中でも私は、特に土のしてくれるはたらきに感心した。土がないと木が育たない、木がないと森林はできない。そんな大切な土は二億五千万年もの大昔に原始植物の根が岩と岩とをつなぎとめて芽が出たことが始まりとなつていて。その

くり返しで土は厚くなつていつたといわれている。私は、この本を読み始めた時、ただ森林に感謝したいと思った。だが、この本を読み終わった時は、その森林を作る大切な土を作り出してくれた原始植物にも感謝したいと思うようになった。もう一つ印象的だったところがある。それは、人々が苦心しながら砂丘に木を植えていたところだ。砂丘はたくさん砂が降つてくるので、暮らしたり、畑を作つて農業をしたり出来なかつた。そのため、海辺の砂を防ぐ海岸林を植え、国土を増やそうとしたのだ。しかし何度も挑戦しても育たなかつた。それでも人々は必死に木を植え、長い年月をかけてそれを実現させた。このことに私は感動した。私も一度や二度失敗してもあきらめないで、根気よく続けてみようと思った。そうすれば、いつかは努力が実る時が来るのではないかと考えるようになつた。

筆者の富山和子さんはこの本を通して、森林は人間に無くてはならないもので、木そのものだけではなく、水、火、土

も作り出していることや、様々なはたらきをしてくれることを伝えてくれた。だから、今わたしたちが森林を守ることは、いつか私たちの暮らしを守ることになるのだと思った。

私は、この夏もキャンプに行つた。森林の中で過ごしたり、畑で育った野菜を収穫させてもらつたりした。炭を使ってバ

ーベキューもした。森林のありがたさに改めて気付かされた。この大切な森林を無くさないために、割りばしなど、木で出来たものを大切にしたり、水や土を汚さないなど身近な事から気を付けていきたいと思う。